

「第2回坊っちゃん列車を考える会」議事要旨

1. 日時 令和6年1月26日(金) 15:30~16:50

2. 場所 市役所本館11階 大会議室

3. 参加者

野志 克仁 松山市長(招集者)
藤田 仁 松山市 副市長
清水 一郎 株式会社伊予鉄グループ 代表取締役社長
渡部 克彦 松山市議会 議長
武田 浩一 松山市議会産業経済委員会 副委員長
高橋 祐二 松山商工会議所 会頭
大崎 修一 松山観光コンベンション協会 専務理事
奥村 敏仁 道後温泉旅館協同組合 理事長
木原 光一 株式会社伊予銀行 常務取締役
松木 久和 株式会社愛媛銀行 常務取締役
井口 梓 愛媛大学社会共創学部 准教授

4. 次第

1. 開会あいさつ
2. 参加者紹介
3. 議事内容 (1)アンケート結果の報告
(2)各団体の運行再開に向けた具体策やお考えについて
(3)坊っちゃん列車の運行経費について (4)意見交換
4. 閉会

5. 議事の経過

○冒頭、野志市長からのあいさつの後、参加者の紹介が行われた。

○松山市から坊っちゃん列車に関するアンケート結果と運行再開への考えを説明し、参加者から運行再開に向けた具体策や考えを説明した。参加者からの主な発言は以下のとおり。
(松山市)

- ・坊っちゃん列車の持続可能な運行には、関係団体の協力を得ながら取り組む必要がある。
- ・運行を再開するのであれば、再開のための具体策や各団体で検討可能な協力方法について、意見を伺いたい。

(参加者)

- ・団体に所属する会員に対して、坊っちゃん列車の利用を促進できるよう幅広く依頼する。
- ・全国から企業や団体が視察に来た時などに、坊っちゃん列車を利用してもらえるよう、情報発信を行う。
- ・市民向けイベントで、坊っちゃん列車を利用する方法を検討する。
- ・坊っちゃん列車は松山の地域資源、観光資源で地域のたからであり、関係各団体で磨き直し、利用促進を図ることは重要である。

- ・クラウドファンディングやネーミングライツなどが行われれば、会員企業に呼びかける。
- ・松山マドンナ大使等を活用した観光案内を行う。
- ・坊っちゃん列車を組み込んだ新たな旅行商品を開発する。
- ・MICEのアフターコンベンションで活用する。
- ・坊っちゃん列車の利用促進につながる取組をこれまで行わなかったことを反省している。
- ・持続的な運行に向けた意見交換会や提案ができる場を設けるなど、関係団体で継続して取組みたい。
- ・道後温泉駅で写真撮影の手伝いや転車台での転回時のガイドなどを行う。
- ・坊っちゃん列車の時刻に乗車への誘導を行う。
- ・宿泊券と乗車券をセット販売する。
- ・貸切運行や車掌なりきり体験など、旅行会社と協力して商品化する。
- ・アプリ対応で乗車予約できるようにする。
- ・旅行会社とタイアップを行い、パッケージ商品などを作る。
- ・DXの取組を支援する。
- ・まちを面的に観光資源化するの難しいが、その役割を果たしているのが坊っちゃん列車である。
- ・レトロな列車に乗るという体験価値だけではなく、列車に向かって手を振るという市民の経験価値もあるし、それが観光資源になる。
- ・運行方法なども事業者だけでなく、関係者全員で考えていく必要があると思う。
- ・市民に向けたキャンペーン等、市民にも利用される仕組みを考える。
- ・観光客も市民も含め、全員で応援していこうというプロモーションを実施する。
- ・デジタルサイネージや Youtube チャンネルを活用して露出する。
- ・クラウドファンディングの支援を行う。
- ・シンクタンクでの経済効果の調査や、コンテンツとしてのブラッシュアップの支援を行う。
- ・関連グッズの開発やマッチングの支援を行う。
- ・関係団体の支援も必要だが、伊予鉄道にも効率よく経費を抑制する努力をしてほしい。
- ・メリットがない市民もいる中で税金を活用するとなると、市にも伊予鉄道にも説明責任がある。
- ・列車の運行スタートは社運をかける思いだったと聞いている。当初の思いはなくなったのか。非常に残念である。
- ・バス・鉄道事業に対する坊っちゃん列車の占める割合をオープンにするべきではないか。
- ・松山市との損益状況などの共有について、どのように行っているのか。
- ・税金の投入で運行が可能となる根拠を示す必要がある。
- ・市民の声として全体的に説明が足りない。
- ・市が主体となって早期再開に取り組んでほしい。
- ・市の財政状況を考えて議論を進めてほしい。
- ・市は伊予鉄道と真摯に向き合ってほしい。
- ・社会経済的効果を客観的に明らかにするため、民間のシンクタンクや大学などに調査依頼をしてはどうか。
- ・市と伊予鉄道の信頼関係が崩れていると感じているが、この状態で税金を投入し、坊っちゃん列車の運行は持続可能なのか。
- ・過度の税金投入はしないように。
- ・20年で14億の赤字を出しているのに、黒字化ができる見込みはあるのか。

- ・電車、バス利用者のサービスは低下したままで坊っちゃん列車に税金を投入することを、利用者にどう説明するのか。
- ・普通運行の電車・バスにより支援するべきではないか。
- ・坊っちゃん列車を考える会で、企業や各団体が相応の負担をすることへの仕組みづくりなど、永続的に運行できる方法を議論するべきである。
- ・単なる赤字補填ではなく、投資以上の効果があるのか今後の見通しを示してほしい。
- ・もっと丁寧に意見をまとめ、市民に説明してほしい。
- ・議会への情報があまりにも少なすぎる。
- ・市議会としては、坊っちゃん列車の1日も早い運行再開に向け、行政と各企業・団体が連携して取り組んでほしい。

○伊予鉄道から坊っちゃん列車を運行した場合の収支見込を説明した。

- ・運行日数や運賃設定に関わらず、年5,000万円を超える欠損が生じる予測である。
- ・運行経費のほとんどはメンテナンスに係る費用である。
- ・運行再開するとしても運転士の養成期間等が必要で、すぐには対応できない。
- ・4月には道後温泉改築130周年を迎えるため、春休み前の3月末から運行するとなれば、決定でなくても大筋の方向性を示してほしい。

○アンケート結果や各団体の具体策、収支見込の説明を踏まえ、意見交換が行われた。

- ・期間が空くと再開が難しくなるため、早期再開を目指したい。
- ・各団体から色々な支援のアイデアが出たので、松山市と伊予鉄道がしっかりと協議し、経費を縮小した上で足りない部分を補助する形で存続をお願いしたい。
- ・LINEアンケートは会議の参考資料とするための基礎調査であり、方針の検討材料としてとらえるなら、もっとしっかりとしたアンケートをしなければならない。
- ・持続可能な運行ができるためにはどうしたらよいか、当事者だけの問題ではなく、みんなでも議論する必要がある。
- ・議会の仕組みでいえば、2月9日が3月議会の告示日であり、2月2日には金額や内容が固まっていないと議会に上程できない。日程上厳しいのではないか。
- ・走らせたい気持ちはあるが、あまりにも情報がないので議論のしようがない。
- ・早く方向性が決まらないと、準備に2～3カ月かかるのですぐには走らせることはできないことを理解いただきたい。
- ・様々な対策をしたうえでの赤字予測額など、中身がある程度固まらないと判断できない。
- ・どういう対策や努力をするといった条件が提示されて、やるかやらないかの判断になる。
- ・企業の論理で考えると損益の話になり、公共事業の論理で考えるとB/Cの話になる。
- ・運行再開を検討するには、B/Cの考え方で進めなければならない。
- ・調査会社などでマーケティング的に調査するか、走らせながら色々な施策をテストして効果を見ながら検討していくか、2つの手法しかない。

○上記の意見交換を踏まえ、今後の対応について以下のとおり取りまとめた。

- ・まずは松山市と伊予鉄道が早急に事務レベルで協議・検討を行い、次回会議を開催する。

以上